

第2回

南国市社会教育研究集会

500人が参加して

家庭教育のあり方を考える

家庭教育のあり方と充実を考えよう」と、十二月六日、市民体育館で第二回南国市社会教育研究集会が開かれました。

これは、地域の社会教育を振興

し、市民一人一人の生きがいの創造、安らぎと潤いのある文化活動の活性化を図る目的で、南国市教育委員会などが主催して昨年から行っているものです。

青少年教育について討論した第

一回社会教育研究集会で「子供にとって憩いの場である家庭や地域作りを進めなければ」などの意見が出たことを踏まえ、今年は家庭教育について討議しました。

会では、まず鈴江教育長が「子

供を取り巻く環境の変化の中で、社会的に自立のできない子が育っている。今後は知的学習以前に仕上げや人間の生き方の教育を施す



5人の登壇者によるシンポジウム

会では、まず鈴江教育長が「子供を取り巻く環境の変化の中で、社会的に自立のできない子が育っている。今後は知的学習以前に仕上げや人間の生き方の教育を施すべきと考え、このことを本日の主題として意見を出し合い、意識のある会にしてみたい」とあいさつ。

小笠原市長の祝辞に続いてシンポジウムに移り、「いま家庭教育に求められているものは」と題して元高知放送ニュースキャスターの品原淳次郎さんをコーディネーターに五人の登壇者がそれぞれの体験に基づいて意見を出し合いました。

○家庭だからこそできることに力を注ぎ、親が見本を示すことによって善悪のけじめをつけることができる教育と基本的生活習慣の育成を。

○今は、親が子供を前からひっぱり、子供の行き先を決めているが、本当は子供を後ろから見る方がよい。



豊原さんがユーモアたっぷりに講演

○家庭の機能はくつろげる空間であり、両親は子供と心を通わせ合うことが必要だ。しつければ親の姿勢で染み込ませるべき。

○子供は親の言うことは聞かないが、親がすることはその通りするので、自分自身を語ることで教育である。

○本当の教育は祈りである。手を合わせる教育、祈りの教育を行い、永遠に対して最初に目を開かせるのが家庭である。

意見発表の後会場とも意見交換。「豊かな時代だが、満たされたところに大きな欠陥があり、親の子供に対する愛情が物置き換えられた結果、子供の求める愛情は与えられず、もっと大事なことが見えなくなっている」「家庭により愛情の形というのは違うのではないか」などと熱心に討論が行われました。

この後「私の子育て体験から」と題してフリーアナウンサーの豊原ミツ子さんが記念講演。自分の子供時代のことや結婚してからのことなどを独特の語り口でユーモアたっぷりに話し、会場を埋めた人々は時間も忘れて熱心に聞いていました。

約500人の市民が参加して社会教育研究集会が開かれた